# 加賀藩における馬の世話役の身分と呼称に関する調査報告

**1. はじめに**

本報告書は、ご依頼いただいた加賀藩における馬の世話をする身分の低い者の呼称、前田姓を持つ親戚からの伝承である「加賀藩の馬引き」という家系の出自、そして戸籍上の農地所有との関連性について調査した結果をまとめたものです。加賀藩は、戦国時代から江戸時代にかけて前田家が治めた大藩であり、その社会構造は複雑な階層によって成り立っていました。本報告書では、当時の加賀藩の社会階層構造、馬に関する役職や身分、そして「馬引き」という言葉の使われ方などを詳細に分析し、ご依頼者の家系に関する伝承の理解を深めることを目的とします。

**2. 加賀藩における社会階層構造（戦国時代から江戸時代）**

江戸時代の社会階層は一般的に「士農工商」と表現されますが、加賀藩においてもこの枠組みが存在していました 1。しかし、各藩の状況に応じて内部構造はより細分化されており、単純な四階層モデルでは捉えきれない側面がありました 2。ご依頼者の家系に関する考察を進めるにあたり、まずは加賀藩における武士階級の内部構造を詳しく見ていく必要があります。

加賀藩の武士階級は、禄高に応じて細かく分けられていました 5。最上位には、1万石以上の禄高を持つ「人持組頭（ひともちくみがしら）」、別名「加賀八家」と呼ばれる8家が存在し、藩の重臣として藩政に深く関与しました 5。次いで、「人持（ひともち）」と呼ばれる階層があり、彼らもまた高い禄高を有し、家老などの重職を務めることもありました 5。

これらの上位階層に次ぐのが、「平士（ひらし）」と呼ばれる中級武士です 5。平士は加賀藩の武士階級の大部分を占め、行政や軍事において中心的な役割を担っていました 10。彼らの中には、藩主の馬の世話をする「御馬奉行（おうまぶぎょう）」のような役職に就く者もおり、馬の管理が必ずしも低い身分の者だけの仕事ではなかったことが示唆されます 10。御馬奉行は平士の役職であり、「御馬役（おうまやく）」や「御馬医（おうまえ）」といった馬の世話をする人々を管理・支配する立場でした 12。また、平士の中には騎馬隊である「御廻組（おまわりぐみ）」に所属する者もおり 10、これらの騎馬武士にも馬の世話をする従者がいたと考えられます 14。

より低い身分には、「与力（よりき）」、「御歩（おかち）」、そして「足軽（あしがる）」といった階層が存在しました 5。足軽は藩の最下級の兵士であり、平時には事務的な労働や中間管理的な労務も担っていました 5。興味深いことに、足軽の中には「手木足軽（てぎあしがる）」という職制があり、藩の庭園管理や荷物運搬に従事していたことが記録されています 15。

さらに、武士ではないものの武家に仕える身分として「中間（ちゅうげん）」が存在しました 5。中間は下男と足軽の中間に位置づけられ、主人の身の回りの世話、荷物持ち、そして戦場では武器を渡したり馬の世話をしたりする役割を担っていました 16。平時においても、主人の外出時には草履取りや荷物持ちとして供をするなど、様々な雑務をこなしていました 16。特に裕福な武士の家では、中間が馬の世話係として日常的に馬の運動や手入れ、鞍付けなどを行っていたことが分かっています 11。

最下層には、「小者（こもの）」と呼ばれる人々もおり、運搬や土木作業などの肉体労働に従事していました 5。

加賀藩における主要な社会階層と役割をまとめると、以下の表のようになります。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **階層名** | **日本語表記** | **一般的な役割** | **関連スニペット** |
| 人持組頭（加賀八家） | ひともちくみがしら | 藩の重臣、藩政に関与 | 5 |
| 人持 | ひともち | 重職を務める上層家臣 | 5 |
| 平士 | ひらし | 行政・軍事の中核、御馬奉行など | 5 |
| 与力 | よりき | 事務官 | 5 |
| 御歩 | おかち | 藩主警護、雑務 | 5 |
| 足軽 | あしがる | 兵士、事務、荷物運搬（手木足軽） | 5 |
| 中間 | ちゅうげん | 主人の世話、荷物持ち、馬の世話 | 5 |
| 小者 | こもの | 肉体労働 | 5 |

**3. 馬に関する公的な役職と非公式な役割**

加賀藩には、馬の管理や兵力としての活用に関連するいくつかの公的な役職が存在していました。その一つが前述の「御馬奉行」であり、藩主の馬の世話を統括する重要な役割を担っていました 12。御馬奉行は「御馬役」と「御馬医」を管理・支配する立場であり 12、藩の馬の飼育や医療に関わる体制を監督していました.10

また、「馬廻（うままわり）」は、平士の中から選ばれた騎馬隊であり、戦時には重要な戦力となりました 10。馬廻には、家禄に応じていくつかの組が存在し 12、それぞれの組には頭（かしら）や番頭（ばんがしら）といった役職が置かれていました 17。馬廻は戦時だけでなく、平時にも大名の護衛や伝令などの役割を担い、大名の側近として仕えることもありました 19。これらの騎馬武士の馬の世話は、彼らに仕える中間や小者が行っていたと考えられます.14 スニペット 14 には、騎乗する平士の周囲に「馬取（うまとり）」と呼ばれる馬の世話をする者が従っている様子が描かれています。

一方、公的な役職ではありませんが、馬の良否を見分ける専門家として「伯楽（はくらく）」という言葉も存在していました 20。これは中国由来の言葉であり、江戸時代には幕府に「馬労（ばろう）」という役職もあったとされています 20。加賀藩においても、富山藩（かつて加賀藩の一部）の初期には「伯楽」という役名を持つ者がいたことが記録されており 21、馬に関する専門知識を持つ人材が重要視されていたことが伺えます。

ご依頼のあった「馬引き（うまひき）」という言葉は、文字通り馬を引く人を指す一般的な言葉であり 22、特定の身分や役職を示すものではない可能性が高いです。22 の記述によれば、「馬引き」は馬を引いて荷物を運ぶことを業とする人、つまり「馬方（うまかた）」と同義であるとされています。また、神社参りの行事を指す場合もあるようです 23。

同様に、「馬方」も駄馬で貨客の運送を業とする者を指し 22、伝馬役を請け負い、役元の田畑の耕作なども行う者が多かったようです。これらのことから、「馬引き」や「馬方」は、馬を使った運搬業務に従事する人々を広く指す言葉として用いられていたと考えられます。

また、「馬丁（ばてい）」は、厩（うまや）で馬の世話をする人を指す言葉として用いられていました 22。11 には、旧藩士高田家の厩について、馬の世話をする奉公人たちのことが記されており、このような人々が「馬丁」と呼ばれていた可能性があります。

**4. 馬の世話役としての「中間（ちゅうげん）」の可能性**

前述の通り、「中間」は武家に仕える下級の身分であり、様々な雑務の中でも特に馬の世話を行うことが多かったと考えられます 11。11 には、高田家の屋敷に仕える中間が、毎朝早く起きて馬を運動させ、手入れをし、厩の敷き藁を交換する様子が具体的に描写されています。また、主人が外出する際にはすぐに馬に鞍をつけ、手綱を引いて供をする役割も担っていました 11。16 によれば、中間は騎士（騎乗の侍）の馬の口取りなど、騎士の従者として扱われることもありました。

中間の社会的な位置づけは、武士よりは下位であるものの、町人や百姓といった一般の領民よりは上位に位置していました 9。彼らの仕事内容や身分を考慮すると、ご依頼者がお尋ねの「身分の低い者で馬の世話をする者」として、「中間」が最も可能性の高い候補の一つと言えるでしょう。

**5. 加賀藩における「馬引き（うまひき）」という言葉の使われ方**

「馬引き」という言葉は、その一般的な意味から考えると、加賀藩においても馬を引く人を指す言葉として広く使われていた可能性は十分に考えられます 22。しかし、当時の公的な記録や文献において、特定の役職名として「馬引き」という言葉が用いられていたかどうかは、現時点では明確な証拠は見つかっていません。

むしろ、「馬引き」は、特定の身分や職業を指すというよりも、馬を引くという行為そのもの、あるいはそれを行う人々を指す俗称として用いられていた可能性が高いと思われます。例えば、荷物を運ぶために馬を引く農民や町人、あるいは武士の従者として馬を引く中間や足軽などが、「馬引き」と呼ばれることがあったかもしれません。

**6. 馬の世話と農業の関連性**

加賀藩において、馬の世話をする役割と農民の役割は、決して無関係ではありませんでした 14。14 や 14 の記述によれば、加賀藩では農民に馬を預けたり貸与したりすることで、積極的に馬の生産を奨励していました。これは、武士が軍事や移動に馬を必要としたため、領内での馬の確保が重要であったためと考えられます。農民は藩から預かった馬を大切に育て、良質な馬は藩（武士）に買い上げてもらうことで収入を得ていました 14。

また、24 の瓜生村の事例からもわかるように、農民自身も農作業や荷物の運搬に馬を重要な役畜として利用していました。馬を飼育することは手間や費用がかかるため、一般的には中農以上の比較的裕福な農民に限られていましたが、馬は農村経済において不可欠な存在でした。

このように、加賀藩の農民は、藩の政策によって馬の生産を担うとともに、自らの生活や生業においても馬を深く利用していました。そのため、ご依頼者のご先祖様が農地を所有していたとしても、「馬引き」という伝承と矛盾するものではありません。むしろ、農民が日常的に馬に接していたことから、何らかの形で馬の世話に関わっていた可能性は十分に考えられます。例えば、自分の農耕馬の手入れをしていただけでなく、近隣の武士の馬の世話を臨時に手伝ったり、馬を使って荷物を運搬する仕事に従事したりすることもあったかもしれません。

**7. 家系伝承と戸籍記録の検討**

ご依頼者の家系が前田姓を持ち、「加賀藩の馬引き」であったという口伝は、何らかの形でご先祖様が馬に関わる仕事をしていたことを示唆していると考えられます。一方で、戸籍を辿った結果、実家が農地であったという事実は、ご先祖様が主に農業を営んでいた可能性を示唆しています。

これらの情報を総合的に考えると、いくつかの可能性が考えられます。一つは、ご先祖様が農民でありながら、副業として、あるいは何らかの縁で馬の世話をする仕事をしていた可能性です。当時の農村では、農業以外の仕事に従事することで家計を助ける兼業農民も少なくありませんでした。

また、時代が下るにつれて、家系の主な生業が馬の世話から農業へと変化した可能性も考えられます。あるいは、その逆の可能性も否定できません。口伝による家系伝承は、長年にわたって語り継がれる中で、細部が変化したり、特定の側面が強調されたりする可能性も考慮する必要があります 12。

前田姓を持つ家臣団の中で、馬に関する役割を担っていた家系の記録を調査することも考えられますが、ご依頼者のご先祖様が必ずしも武士階級に属していたとは限りません。前述のように、農民や町人であっても「馬引き」として馬に関わる仕事をしていた可能性は十分にあります。

**8. 結論**

本報告書の分析結果から、ご依頼者のご先祖様が「加賀藩の馬引き」であったという伝承と、農地を所有していたという事実は、必ずしも矛盾するものではないと考えられます。

当時の加賀藩においては、身分の低い者が馬の世話をする場合、「中間（ちゅうげん）」という身分がその役割を担っていた可能性が高いです。また、「馬引き」という言葉は、特定の身分や役職を指すのではなく、馬を引く行為やそれを行う人々を広く指す一般的な言葉として用いられていたと考えられます。

さらに、加賀藩では農民が馬の生産を奨励されており、農民自身も農耕や運搬に馬を利用していました。そのため、ご先祖様が農民でありながら、何らかの形で馬の世話に関わっていた可能性は十分に考えられます。兼業農民として馬の世話をしていた、あるいは時代とともに生業が変化したなど、様々な状況が考えられます。

今後の調査としては、より詳細な戸籍記録や地域の歴史資料などを調べることで、ご家族の歴史についてより具体的な情報を得られる可能性があります。口伝による伝承は貴重な手がかりとなりますが、他の史料と照らし合わせながら、慎重に検証していくことが重要です。

#### 引用文献

1. 江戸時代の武士道／ホームメイト - 名古屋刀剣博物館, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.meihaku.jp/bushido/edo-bushido/>
2. 磯田 道史「『武士の家計簿』から読む幕末・維新の生き方」 - 慶應MCC, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.keiomcc.com/magazine/sekigaku72/>
3. 一 幕末期の教育 - 文部科学省, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317577.htm>
4. 士農工商 - Wikipedia, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%AB%E8%BE%B2%E5%B7%A5%E5%95%86>
5. 加賀藩家臣のご先祖調べ ～家系図作成からご先祖探しの専門サイト, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.kakeisi.com/han/han_kaga.html>
6. 加賀藩 - Wikipedia, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%A0%E8%B3%80%E8%97%A9>
7. 加賀本多家の歴史・名品, 4月 12, 2025にアクセス、 <http://honda-museum.jp/history-gallery/>
8. 加賀八家, 4月 12, 2025にアクセス、 <http://www1.cnh.ne.jp/minton2/Gallery-10-14-5.html>
9. 加賀藩の武士階級 一般的に、侍は江戸時代（1603―1867）の社会で高い地位を占めていました。, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.mlit.go.jp/tagengo-db/common/001552174.pdf>
10. 平士（中級武士） 「平士」とは中級武士のことです。加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.mlit.go.jp/tagengo-db/common/001552180.pdf>
11. 旧藩士高田家跡 厩について/馬の世話をする奉公人たち - 国土交通省, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.mlit.go.jp/tagengo-db/H30-00652.html>
12. 旧加賀藩士高田家跡 - FC2, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://yhistoricalplace2.web.fc2.com/historical_place/kaga_takada/index.html>
13. 玉川図書館近世史料館, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www2.lib.kanazawa.ishikawa.jp/kinsei/kagahansamuraityou.pdf>
14. 加賀藩の猿引 : ウマが結ぶ社会的ネットワーク - 琉球大学学術リポジトリ, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://u-ryukyu.repo.nii.ac.jp/record/2008141/files/No4p003.pdf>
15. 加賀藩手木足軽と氷室に関する覚え書き - 北陸大学, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/libraryDATA/kiyo46/yaku1.pdf>
16. 中間, 4月 12, 2025にアクセス、 <http://kenkaku.la.coocan.jp/zidai/tyugen.htm>
17. 加賀藩における平土頭分と役料, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/record/46433/files/AN00227659-65_1-29.pdf>
18. 「 諸 頭 系 譜 」 藩 士 諸 役 - 金沢市図書館, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www2.lib.kanazawa.ishikawa.jp/kinsei/shogashiratenji.pdf>
19. 馬廻 - Wikipedia, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A6%AC%E5%BB%BB>
20. 仕事の流儀 ファイル№６ 「馬喰」 - いちのせき市民活動センター, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.center-i.org/%E6%83%85%E5%A0%B1%E7%B4%99idea/%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%81%AE%E8%87%AA%E7%94%B1%E7%A0%94%E7%A9%B6/%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%81%AE%E8%87%AA%E7%94%B1%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E4%BB%95%E4%BA%8B%E3%81%AE%E6%B5%81%E5%84%80%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB-%EF%BC%96-%E9%A6%AC%E5%96%B0/>
21. 利長が金沢から連れてきた家臣団を記した「慶長十（1605）年富山侍帳」には、組外衆に80石の知行高をもつ「福田三郎右衛門」がいますが、役名の記載がありません。, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/toyamajyo/keichouki/kasin/3.htm>
22. 馬方(ウマカタ)とは？ 意味や使い方 - コトバンク, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://kotobank.jp/word/%E9%A6%AC%E6%96%B9-441318>
23. 馬引(うまひき)とは？ 意味や使い方 - コトバンク, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://kotobank.jp/word/%E9%A6%AC%E5%BC%95-2011910>
24. 「能州口郡図」（部分）（091.0-186） 「瓜生村八九郎組合頭申渡状」（46.0-13）, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www2.lib.kanazawa.ishikawa.jp/kinsei/uryunakayama.pdf>
25. 圃場整備の創始者［農聖・高多久兵衛］ ―加賀を創造した人々 - 水土の礎, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://suido-ishizue.jp/nihon/03/07.html>
26. 八坂・馬坂コース - 緑が語る台地の歴史 「水の流れと人が行き交う坂のまち」 - 金沢市, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www4.city.kanazawa.lg.jp/material/files/group/67/2017yasaka.pdf>
27. 若林喜三郎 - 京都大学学術情報リポジトリ, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/249439/1/shirin_042_5_658.pdf>
28. 加賀藩中・後期の改作方農政, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/record/40824/files/AN00044513-23-001.pdf>
29. 3. 江戸時代の牧と新田村【「農」と歴史】, 4月 12, 2025にアクセス、 <https://www.maff.go.jp/kanto/nouson/sekkei/kokuei/hokuso/rekishi/03.html>